

水を大切に 気持ち忘れずに

「大切な水」

「一人ともちよつとこすわりなさい」

きよ年の夏、お母さんがこわい声でよくとお姉ちゃんに言いながら細長い紙を二まい出しました。「水道しりりうのお知らせ」と書いてある紙で、一か月にどれぐらい水道をつかって、そのりよう金はいくらかということが書かれていたそうです。そして、その金がかが前の月にくらべてかなり高くなっていること、水道のメーターをしらべに来た人に

「どこか水がもれていませんか？」
と言われてすくおどろいたそうです。その時ほくは、毎日のようにお風呂でお姉ちゃんやシャワーで水をかけたり、水を出したまま遊んだり、ゆ船ではしゃいでお

湯がへつたために何ども足し湯をしたことを思い出して、心の中で「やばい！」と思いをしました。

「きゆうに水道りよう金がふえたんだけど何か思い当たることはない？」

紙を二つならべたまま、こわい顔でいわれました。まだ水のたんいやお金のべん強はしていない時だったので、どれくらいつかってどれくらい高くなったのかはよくわからなかったけど、お母さんが怒っていること、むだづかいをしたために水道りよう金が高くなったことはわかりました。

「あなたたちはお金をただがしてすてたのと同じこと。むだにながしてしまった水があればどれだけの人がたすかったらだろかね」

ほくはそのとき、お母さんがおこつたのは水道りよう金が高くなったということだけ

ではないことに気づき、大切なことを思い出しました。

前にテレビでせかいではかんとんに水が手に入らない国があることを知りました。小さな子どもが遠くまで水くみに行くこと、よごれたいど水をのんでびよう気になってしまうこと。それに比べて日本はじゃ口からすぐきれいな水が出るのだからともしあわせであることをお母さんやお姉ちゃんと話したことがありません。また、しんさいで水が出なくてふ安な思いをしたことやのこつた水を一てきもむだにしないように大切に

かったこともあったのに、それらをわすれてむだづかいしてしまつたことをはんせいしました。

ほくはその時からなるべく水をむだにしないように気をつけています。日本とはちがつてかんたんに水を手にできない国はたくさんあります。日本には、ほくたちが安心しておいしい水をのめるようにはたらいてくれる人もいます。きれいで安いな水を飲むこと、そしてその水をつくってくれる人たちに感謝する気持ちをわすれずに水を大切にしたいと思えます。



及川 直君(加賀野小 3年)
中田町・加賀野二

受賞作品を紹介します

第57回水道週間コンテスト(作文・低学年の部)で、及川直君(加賀野小3年)の作品が最高賞の特選となり、厚生労働大臣賞を受賞。また、平成27年度中学生の「税についての作文」で、高橋茉央さん(東和中3年)の作品が優秀作品として、仙台国税局長賞を受賞しました。二人の作品をご紹介します。(原文のまま)

「税金のありがたさ」

「税金とは何か？」という問いに、しっかりとした答えを出せるのに、あと何年かかるのだろうか。私はこれまで税について詳しく教わった事も考えた事もありませんでした。しかし、この作文を書くことになり自分なりに税について考え、勉強する機会を与えられたと思つていま

す。
税金は所得などに応じて公正に課税され公平に負担すること、新しい道路をつくつたり、学校や病院、消防署などの公共施設を建てたり、私達が安心・



高橋 茉央さん(東和中 3年)
東和町・米川5区

安全に生活するために必要な多くのサービスを支えています。しかし、税金を納める大人達は気持ち良く税金を納めているのだろうか。消費税が上がればため息をつく大人がいる。個人の収入に応じて納める所得税や住民税、土地や建物にも税金はかかる。所有の車があれば、自動車税やガソリン税もかかる。私の身近でもたくさん税金を耳にする。納める税金は耳にする機会も多く、大人達は不平不満も口にする。

では、その税金によって受ける恩恵はどうなのだろうか。当たり前のように歩く道路、当たり前のように通つた幼稚園や

学校、私に多くの事を教えて下さつた先生方。一人の人間が育ち、生きる事に多くの税金が使われている。

私はこの夏、平穩だった日常を奪われる出来事にあつたことで更に税金のありがたさに気付く事ができた。それは、いつも優しく私の心配ばかりする祖父の病気がきっかけでした。

祖父の病氣は血液の病氣で、あまりにも急な出来事だったため家族全員が焦りと戸惑い、心配と不安で何度も心が折れそうになりました。でも、祖父の辛い治療を励まし支えてくれたいる主治医の先生や看護師、病院スタッフの皆さんの優しさに触れることで安心を得られ、月日をおうごとに焦りや戸惑いは消えていきました。見舞いのために通う病院でよく耳にするのは、鳴りやむことのない救急車のサイレン音。毎日、何台もの救急車がこの病院には来ます。そして何人もの人の命を救つて

います。東日本大震災の時もこの病院は多くの命を救い励まし、折れた心を癒して来たのだと改めて知り、病院だけでなく、命を救うために警察官、自衛隊、消防隊員、津波の危機を呼びかけた公務員、他にも多くの大人達の懸命な姿がここにはあつたのだと知りました。そして、私達が当然のように受けている社会の仕組みは、大人達が一生懸命働いたお金の中から納める税金が基盤になっていて、その恩恵を受けていない人は、いないのだと知りました。

「税金とは何か？」この問いに答えを出すのは、私が将来、自分で働き税金を納める時だと思ふ。それまで私はもっと税金の恩恵を自覚し、よりよい社会を作るために税金について学びたい。そして、多くの人達にも税金のありがたさについて知ってもらうために、もっと税金について伝えていきたいと思ひます。

祖父の病で気付いた 税金のありがたさ